

調停の進め方（調停委員）

- 1 まず、申立人を調停室に呼び、その言い分を聞きます。その際、なぜ、調停を起こしたのか、トラブルになっているのかなど、事件のいきさつや、間に入る人として確認しておきたいことも聞いてみましょう。

聞いた言い分は、ワークシートにまとめましょう。

- 2 申立人の言い分を聞き終わったら、今度は、相手方を呼んで、その言い分を聞きます。その際、申立人の言い分を伝え、それに対する反論も聞いてみましょう。

聞いた言い分は、ワークシートにまとめましょう。

- 3 両方の言い分を聞き終わったら、その内容を照らし合わせて、どの点をどう調整すべきか、どちらの当事者にどのように譲ってもらえばよいかを考えて、最初に調停委員として提案する解決方法を出してみましょう。

出した解決方法は、ワークシートにまとめましょう。

- 4 解決方法を出してみたら、それを当事者に伝えて検討してもらいましょう。当事者両方をいっぺんに呼んで伝えるか、片方ずつ呼んで伝えるか、そのような解決方法を考えた理由、言い分を譲ってもらう理由などをどのように説明するか、伝え方は色々なので工夫してみましょう。申立人には、相手方の言い分も伝えて、検討してもらいましょう。

- 5 当事者の検討が終わったら、検討結果を聞いて、照らし合わせてみましょう。
くいちがいや対立が残っていたり、当事者から解決のための新しい提案や条件が出たりしたら、これらについて合意ができるよう、調整や提案をしてみましょう。
- 6 これでトラブルを解決する、という内容が決まったら、その内容を箇条書きの形で、ワークシートの「調停条項」にまとめてみましょう。
- 7 どうしても合意に至らなければ、調停委員として、最終的に望ましいと思う解決方法を、ワークシートの「決定」にまとめてみましょう。
- 8 わからないことや、迷ったことは、調停官役の弁護士に聞いてみてもいいです。でも、どういう解決が望ましいかを考え、当事者に伝えて合意に導くのは、調停委員のあなた自身だということは忘れないで下さい。